令和４年度　東京都立竹台高等学校　学校経営報告

１　今年度経営計画とその実現状況の概要

中期的目標と方策８点を掲げ、それに応じた今年度の目標と方策を細分化して示し、学校経営を行った。その実現状況について以下に概要を述べ、次節以降に数値目標の実現状況を報告する。

［取組状況の概要］

（１）学習指導の充実

今年度入学生からの新学習指導要領施行に対応し、各教科が観点別評価を実施した。各教科の評価の観点整理は前年度から取り組んで来たが、本格実施に至り、著しい教科間格差が生じないように、教務部が早期に調整を主導し無事に年度末を迎えることができた。この観点別評価対応を通じ、教科会の果たすべき機能について教員の理解は深まりつつあるが、他業務との兼ね合いもあり物理的に会議時間を確保しにくい現状がある。令和５年度からは、年間行事予定表に教科会開催日を記号で記載し視覚化することで共通認識を高める工夫を図る。入都からの年数が浅い教員も多いので、今後、「教科間の横断的連携」の実現に向け、管理職や主幹教諭からのＯＪＴをさらに推進する必要がある。一方、校内のデジタル化推進については引き続き進展を見せており、感染症対策のため全校一斉オンライン授業が実施できている。SDGｓについては、学年の探究活動の一環とする等の地道な取り組みを続けている。補習・講習会の充実に向け、土曜講習を部活動と同様に位置づける「まな部」を進路部が発案し、教務部と連携して運営している。自主学習時間の確保は引き続き課題として残るが、平日自習室利用の常連生徒が現れるなど、変容の兆しは見える。在京外国人生徒への日本語指導は、継続して放課後指導者の協力を仰ぎ、実現している。

（２）進路指導の充実

２年間に渉り東部学校経営支援センター特別指定校として取り組むことで、キャリア教育の充実に対する教員の意識醸成は確実に進展し、Classi 機能を活用してポートフォリオ作成に取り組ませる指導ができるようになった。また、総合的な探究の時間について、各学年のよき取り組みを学校の取り組みとして引き継いでいくために、次年度からの教育課程を見直し、拡大進路指導部会の中で学年と進路部が小委員会的な動きで連携を深めることを確認するなど、具体的な改変を行った。出口段階で生徒に安易な妥協をさせないことに注力して進路指導を行ってきた結果、数だけでなく内容的にも従来よりも難関大学進学を実現させることができた。第一希望を曲げないことで浪人を選択する者も一定数出たが、今後も粘り強く学習に取り組むという点では、成果であると受け止めている。

（３）生活指導の充実

オンライン授業期間においては、全体指導では実現しにくい個に応じた柔軟な対応を取ってきた。しかし、教育活動が登校を主とする形に戻ったことで、遅刻者数は過去２年間より増加するという結果になってしまった。対策として、罰則ではなく生活習慣を改善することを目標として、一定期間通常より早く登校させるなどのきめ細かい指導を繰り返し、行動改善を図っている。頭髪・服装指導においては、著しい違反はないが、スカートの折り上げが指導する教員側のストレス要因となっている。声をかければ直す、ではなく、正しい状態を常態化するべく、生徒の自覚を促す丁寧な指導を継続していく。

学習習慣を支える「規律ある自由」の理解と生徒の自律的な取り組みの実現に向け、今後も指導の充実を図る。

（４）募集・広報活動の充実

相変わらず「新校舎効果」による倍率伸長、というメリットを享受し続けていることは否定できない。しかし、在校生が落ち着いて前向きな学校生活を送ることができているということを、「竹台通信」やタイムリーなＨＰ記事で確実に発信し、安心安全かつ積極的な学校であることをアピールしてきた。また、全員態勢での募集広報活動とすべく、総務部が分担の可視化や説明内容の事前録音・パワーポイントの活用など工夫を重ねた結果、クラス数増にも関わらず高倍率を維持できた。今後も「本校の特色」の更なる明確化に向け、議論を深めていくと共に、効果的な募集対策の在り方についても検討を重ねていく。

（５）健康・安全の充実

防災教育の充実への機運の高まりから、指導部による令和４年度防災教育研究校指定を受け、様々な取り組みを行った。新校舎防災施設を教職員が習熟すること、１学年による避難所設営訓練中のマンホールトイレ敷設練習等の荒川区関係部署や消防との連携、２学年の上級救命講習実施など、従来から本校でできていたことをベースにしつつ、さらに工夫と充実を図った。また、生徒会メンバーを中心として夏季休業中に防災士講習に参加した９名は、全員が資格取得を実現した。その後の防災訓練で資格取得者が他生徒へ説明するなど、積極的に活躍してくれている。次年度は研究校指定から外れるが、消防・水道局等の関連部局との連携指定は継続できており、加えて近隣中学校や町会との連携に取り組んでいく。

（６）特別活動・部活動

今年度は、体育祭・文化祭はもちろん、校外学習、修学旅行も計画の縮小や修正はあったものの、ほぼすべて実施することができた。体育祭・文化祭は、教員の想定を上回る上質な内容を生徒は実現し、引き続く感染症対策のために保護者公開を見送らざるを得なかったのが残念であった。校内デジタル化の推進が、特別活動の様々な場面で、内容充実につながった。今できる新しいやり方を工夫することに生徒と教職員が一体となって取り組むことで、生徒の可能性の伸長を図ることがてきた。

部活動は無理せず楽しんで継続することが重要で、感染症の落ち着きに沿って、少しずつ活発になってきた。同好会から部活動に昇格したり、部員数が増加したり、という前向きな変化が聞こえる部がある一方で、学年間の亀裂で開店休業状態になってしまった部もあるなど、悲喜こもごもではある。華道部による各階カウンター上の生け花展示は、学校広報としても一役買っており、皆の心を和ませている。

（７）地域連携の充実

社会福祉協議会との連携により生徒が地域の高齢者あてに年賀状を送る、という実践は下の学年に引き継がれ、複数年の継続を見ることができた。自校の特色ある活動とすべく、今後も継続していくことで、地域との連携を深め、地域に理解され貢献できる学校づくりにつなげていく。また、「人間と社会」に位置付けた地域清掃活動について、今年度はようやく東日暮里５丁目町会の方々と生徒が一緒に活動することができた。

（８）学校経営・組織体制の充実

企画調整会議に至る前段階での横の連携が一層円滑になり、会議での検討や決定速度があがった。主幹会議を定期開催できたことが、４級職教員のＯＪＴとなり、忌憚なく意見交換できることからボトムアップの意識が生まれ、各種指定校の円滑な取り組みや分掌業務の改革につながった。ようやく学校運営連絡協議会を集合対面形式で年３回開催することができ、外部委員内部員双方にとって有効な情報交換が行われた。また、育児や介護に携わりながら職務に当たる同僚とどのように連携するか工夫し、職務の偏りを少しでも減らす努力を重ねてきたが、全体のライフ・ワーク・バランスの充実には、今後も合理的・効率的業務改善を推進していく必要がある。

２　数値目標の実現状況と自己評価

※Ａ＝十分達成　Ｂ＝概ね達成　Ｃ＝達成できなかった　（　）内数値は前年度実績

数値目標としては達成できなかった項目もある。３年間に及ぶ感染症対策中の教育活動であったことから、今年度も直前まで変更や中止の可能性を帯びた状態で進めざるを得ず、目標が実態と合致しないところがあった。評語はＣとせざるをえないが、制限された中でも目標実現に尽力したことで、学校経営上、全体的には安定傾向にあったと言える。

≪学習面≫

・学力スタンダードに基づく学力調査得点　　55%以上（49.6%）60%　A

・自習室の開室（始業前・放課後）150 日以上（19 日延べ利用者 216 人）
　常時開室、考査前は会議室も朝時間帯開放　B

・土曜講習の実施　各学年 10 回以上（感染症対策のため未実施）
　１年 5 回、2 年 10 回、3 年 3 回　B

・長期休業中講習　延べ 200 時間以上 500 名以上
（教科 15 講座　延 67.5 時間･178 名　日本語教室集中講座 5 日間　延 10 時間･103 名）
　教科　21 講座　述べ 190 時間　569 名参加　　B
　日本語教室集中講座　述べ 10 時間 66 名参加　　B

・生徒による授業評価における肯定的評価　75%以上（66.9%）79.7%　A

・図書館貸出冊数　3500 冊以上（3021 冊）1921 冊　C

・資格取得準 2 級以上　10 名以上（6 名＝英検 5 名漢検 1 名）英検 9 名　漢検 11 名　A

≪生活指導面≫

・年間遅刻 30 日以上　　1 年生　5%以下（1%）3.5%　　A
　　2 学年　5%以下（4.7%）28.7%　C
　　3 学年　5%以下（25%）24%　　C

・部活動加入率 1 学年　　75%（69%)68%　B

・学校評価アンケート
　地域の否定的評価　　30%未満（16.7%）　46.2%　C

・体罰　　0 件（0 件）A

≪募集・広報活動面≫

・ホームページ年間更新回数　　200 回（202 回）204 回　B

・学校説明会　　5 回（5 回：664 名）5 回　1016 名　A

・個別相談会　　5 回（6 回：183 名）2 回　68 名　C

・中学校訪問　　150 校（49 校）　78 校　C

・塾訪問　　60 校（38 校）　24 校　C

・中進対第 1 志望調査　　1.20（1.34）　1.43　A

・入学者選抜応募倍率（学力検査）　1.50（1.47）　1.25　B

・文化祭来校者数　　2000 名（公開未実施）公開なし

・「竹台通信」発行　　12 回（10 回）12 回　A

・相互授業見学各学期 1 回以上　　100%（1 回は実施が 72%）41%　C

≪地域連携面≫

・施設開放　　20 団体 20 日（17 団体 11 日）14 団体 10 日　B

≪学校運営・組織体制面≫

・主幹会議　　6 回以上（5 回実施）20 回　A

・電子起案の推進　　90%以上（89%）93%　A

・センター契約　　55%（53%）55%　　A

・定時外在校時間　　80 時間越 0 名(1 名)　1 名　B

４　次年度以降の課題と対応策

（１）学習指導

基礎・基本の確実な学力の定着と新学習指導要領や大学入学共通テストにも対応した授業内容や授業方法を工夫していく。教科主任会及び教科会を定期的に開催し、教科内での指導内容や指導方法の共有化を図るとともに、教科間の横断的な連携を深め組織的な指導体制を構築し、意図的・計画的に学習指導を一層すすめていく。全学年朝学習の時間を設け学習習慣の定着を図る。始業前・放課後に自習室の環境を整備し開放を継続し、また、まな部の活動を活性化することで、授業時間以外での生徒の主体的な学習を推進する。

（２）進路指導

生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路選択することができるよう、入学時から系統的かつ組織的な指導が行えるよう、キャリア教育全体計画の充実を図る。

模擬試験・適性検査・個別面談等の実施により、個別課題を明確にさせ、自ら目標を設定し易きに流れず努力し続けることができる進路指導を行う。

（３）生活指導

規律ある自由の理解に向け、全校集会・学年集会・ホームルーム等を活用し、遅刻・身だしなみ等の規範意識を高める。生徒会・部活動などの活動を通じて、生徒中心の自己啓発活動をサポートする。

（４）募集・広報活動

入学者選抜前期の応募倍率向上を目標とし、これまでの募集・広報活動の内容を見直し、本校の特色を明確化して積極的な情報発信を行っていく。

（５）健康・安全

当面は新型コロナウイルス感染症対策への対応を堅持し、対策基準緩和後も様々な面において生徒の命や健康を守り、安全・安心を最優先とする教育活動を行う。

学校不適応や中途退学の未然防止及び自殺予防に対する指導や対策を進め、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制を充実させ、生徒個々の状況の把握と一人一人に応じたきめ細かい指導をすすめていく。防災教育や安全指導を徹底し、災害に対する指導や事故の未然防止を図る。

（６）特別活動・部活動

学校への帰属意識を高められるよう、生徒会・委員会活動を活性化させる。２大行事である、「体育祭」「若竹祭（文化祭）」にて、生徒が主体的に取り組み、安全かつ達成感や自己肯定感を得られるような指導をすすめる。オリンピック・パラリンピック教育による学校レガシーと、在京入試枠設置校としての特色を生かし、「豊かな国際感覚」の醸成をホームルーム等にて図る。

（７）地域連携の充実

地域行事への積極的参加により、地域に理解され・貢献できる学校を目指す。学校情報を積極的に発信し、マイナス面ばかりが印象に残ることのないよう、是正する。

（８）学校運営・組織

東京都教育委員会からの指定や支援を受け、教育活動の充実・発展に取り組むとともに、法令・規則等に基づく組織的な学校運営をさらにすすめ、引き続き諸課題の解決を図っていく。ライフ・ワーク・バランスの充実に向け、組織的な業務バランスを意識して、効率的・合理的な業務改善に取り組む。